

公文書で初めて**統計**の用語が登場したのはいつか？

奥積 雅彦（国立国会図書館支部総務省統計図書館長）

「統計」や「統計学」は、西欧から移入され、明治の初めまで日本にはなかった新たなコトバです。筆者は統計資料館で行う明治 150 年記念事業に関わることとなり、公文書で初めて統計の用語が登場したのはいつかについても調べる機会に恵まれました。本稿ではその一端を紹介します。

1 「Statistics」を「統計」と最初に訳したのは？

「Statistics」を「統計」と最初に訳したのは、開成所教授であった柳河春三とされています。これは、石橋元内閣統計局長が開成所の学生であったとき（明治 2 年（1869 年））の記憶に基づくものです。その記憶では、氏名までは詳らかにされていませんが、後に、一橋大学細谷新治教授が柳河春三と推定しています¹。

なお、筆者は、柳河春三の著書・訳書で、「統計」の訳字に関する記述があるものの検索²をトライしてみましたが、その証拠となる書物は、発見できませんでした。

2 「統計」の用語が最初に登場する公文書は？

官庁の文書に「統計」が最初に用いられたのは、明治 3 年（1870 年）8 月 4 日に外務省が諸省に廻達した文書（外国貿易品輸出入の物品高表を編集、貿易年表を出版する旨を通知した文書）とみられ、その中で「統計年鑑」という用語がでてきています。【別記 1 参照】

3 官庁の組織名に「統計」が最初に用いられたのは？

官庁の組織名に「統計」が最初に用いられたのは、伊藤博文の建議（米国視察から帰国（明治 4 年（1871 年）5 月）後作成）に基づき、明治 4 年 7 月設置された大蔵省の統計司（同年 8 月、統計寮に改称）とされています。

【参考 1】伊藤博文の建議

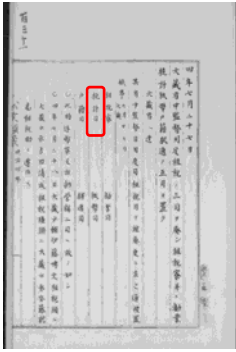
明治 4 年（1871 年）7 月、大蔵省に統計司（同年 8 月、統計寮に改称）が設置されました。これは、島村史郎「日本統計発達史」によれば、「伊藤博文がアメリカの財政・金融制度を調査し、同年 5 月に帰国して建議したことによると言われている。」とされています。同書に、その建議（統計寮に係る部分）が掲載されており、その内容は次のとおりです。

第九ヲ**統計寮**ト為ス。凡ソ全国ノ財計ヲ蒐集シ、甲年ノ収支ヲ量リ、乙年ノ出納ヲ定メ以テ政府ニ稟報シ、人民ニ公告スルヲ要ス。是レ特ニ此ノ一寮ヲ設置シ、之ヲシテ物産、戸口、貨幣、正租、雑税、公債、官禄等ヲ**統計セム**ト欲スル所以ナリ。

¹ 「スタチスチック解題」16 頁

² 早稲田大学図書館 古典籍総合データベース、国立国会図書館デジタルコレクションから「柳河春三」、「柳川春三」を含む図書を検索し、「統計」の訳字に関する記述の有無を目視で確認。

【参考2】「大蔵省中監督用度租税ノ三司ヲ廃シ租税寮并ニ勸業統計紙幣戸籍駅逓ノ五司ヲ置ク」
(明治4年(1871年)7月27日)³



4 「統計学」の訳字が初めて世に出たのは？

「統計学」の訳字が初めて世に出たのは、明治7年(1874年)6月に文部省出版の「統計学」(モロー・ド・ジョンネ著「Elementde Staisique」、箕作麟祥訳)とされています。

【別記2参照】

5 柳河春三、福地源一郎、箕作麟祥の関係は？

柳河春三は、「統計学」(明治7年(1874年))を翻訳した箕作麟祥とともに、開成所で翻訳等に従事していました。また、柳河は、「統計寮」の創設(明治4年)を提案した伊藤博文の米国視察(明治3年11月~明治4年5月)に随行した福地源一郎とは、お互いの著書・訳書の序文を記すなどの関係でした。このことから、柳河から二人に何らかの形で「統計」という訳字について伝わったのではないかと考えられています⁴。また、箕作麟祥は、元治元年(1864年)外国奉行支配翻訳御用頭取として、福沢諭吉、福地源一郎らとともに英文外交文書の翻訳に従事していたこともあります。



やながわ しゅんさん
柳河 春三⁵
(1832~1870)



ふくち げんいちろう
福地 源一郎⁶
(1841~1906)



みつくり りんしょう
箕作 麟祥⁶
(1846~1897)

6 おわりに

これまで「統計」の用語が、初めて登場したのは明治4年(1871年)の「統計寮」の創設を含む建議と言われていましたが、その前年の明治3年8月4日に外務省が諸省に廻達した文書において「統計年鑑」の用語が登場していたことから、外務省において「統計」の訳字を考案された可能性もでてきました。ちなみに、箕作麟祥は、明治2年から翻訳御用掛(外国官:のちの外務省)に在籍していましたが、これは偶然でしょうか。いずれにしても、柳河春三、福地源一郎、箕作麟祥の3人のトライアングルが、「統計」の訳字に深く関わっていたようです。

³ 【資料】: 国立公文書館アジア歴史資料センターHP

⁴ 【参考資料】: 総務省統計局HP 「統計学習の指導のために(先生向け) - 「統計」という言葉の起源

⁵ 【柳河の写真】: 国立国会図書館デジタルコレクション

⁶ 【福地、箕作の写真】: 国立国会図書館HP 「近代日本人の肖像」

別記 1

各開港場輸出入物品高表上木⁷

外務省ヨリ諸省へ廻達文書 明治三年七月
八日 (太陰曆。太陽曆：明治三年八月四日)

各開港場輸出入物品高去巴年中之分上木ニ
付三部宛御達申候乍御面倒御順遠留ヨリ御
返却有之度候也

外国貿易品輸出入ノ多寡ヲ調査シタルモノ
ハ此書ヲ以テ始トス爾後外国貿易ノ事務大
蔵省ニ属スルヲ以テ租税寮ニ於テ前年ノ成
模ニ倣ヒ各港輸出入物品高ヲ^{へんしゅう}編輯シ其
時々之ヲ頒布セリ後関税局ニ於テ外国貿易
年表ヲ刊行シ更ニ精密ヲ加フ又**統計年鑑**モ
^{つまびらか}詳ニ之ヲ登載ス故ニ本文ニ属スル物品
表及大蔵省頒布ノ取調表等ハ総テ之ヲ畧ス

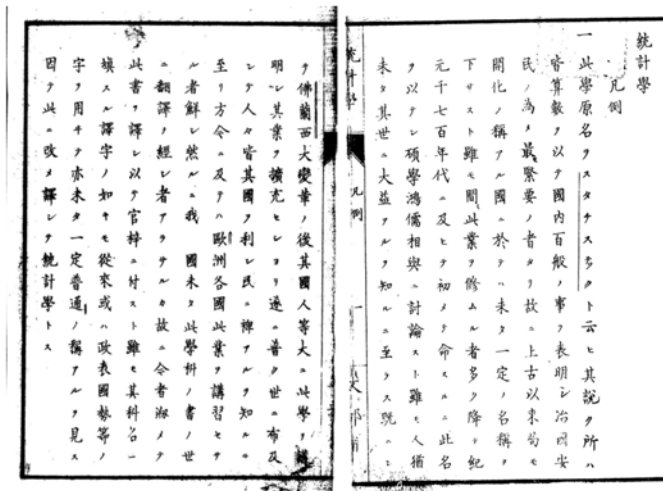
各開港場輸出入物品高表上木

外務省ヨリ諸省へ廻達 三年七月八日

各開港場輸出入物品高去巴年中之分上木ニ付三部宛御達申候乍御面倒御順遠留ヨリ御返却有之度候也

○外國貿易品輸出入ノ多寡ヲ調査シタルモノハ此書ヲ以テ始トス爾後外國貿易ノ事務大蔵省ニ属スルヲ以テ租税寮ニ於テ前年ノ成模ニ倣ヒ各港輸出入物品高ヲ編輯シ其時々之ヲ頒布セリ後関税局ニ於テ外國貿易年表ヲ刊行シ更ニ精密ヲ加フ又**統計年鑑**モ詳ニ之ヲ登載ス故ニ本文ニ属スル物品表及大蔵省頒布ノ取調表等ハ総テ之ヲ畧ス

⁷ 【資料】：内閣記録局編輯「法規分類大全」〔第25〕 外交門 第4開港開市、外人雇使、雜載）一国立国会図書館デジタルコレクション 【228 コマ】



【資料】: 国立国会図書館デジタルコレクション

【内容】

凡例
 此學原名ヲスタチスチックト云ヒ其ノ説ク所ハ皆算數ヲ以テ国内百般ノ事ヲ表明シ治国安民ノ為最モ緊要ノ者タリ故ニ上古以來苟モ開化ノ稱アル國ニ於テハ未タ一定ノ名稱ヲ下サスト雖モ間ク此ノ業ヲ修ムル者多ク降テ紀元千七百年代ニ及ヒテ初メテ命スルニ此名ヲ以テシ碩學鴻儒相與ニ討論スト雖モ人猶未ダ其世ニ大益アルヲ知ルニ至ラス既ニシテ仏蘭西大變革ノ後其國人等大ニ此學ヲ講明シ其業ヲ擴充セシヨリ遂ニ普ク世ニ布及シテ人々皆其國ヲ利シ民ニ裨アルヲ知ルニ至リ方今⁸ニ及テ歐州各國此業ヲ講習セサル者鮮シ然ルニ我國未タ此學科ノ書ノ世ニ翻譯ヲ經シ者アラサルカ故ニ今⁸者ハジメテ⁹此書ヲ譯シ以テ官梓ニ付スト雖モ其科名一補填スル譯字ノ如キモ從來或ハ政表國勢等ノ字ヲ用キテ亦未タ一定普通ノ稱アルヲ見ス因テ此ニ改メ譯シテ統計學トス

【原文をひらがな表記にし、句読点、ルビを加えたもの】¹⁰

凡例
 此学原名をスタチスチックといい、その説く所は皆算数を以て国内百般の事を表明し、治国安民の為め最も緊要の者たり。故に上古以来いやくも開花の称ある国に於ては未だ一定の名称を下さすと雖も間々此業を修むる者多く、降て紀元 1700 年代に及びて初めて命ずるに此名を以てし碩学^{せきがくこうじゆ}鴻儒^{ひやうにゆ}¹¹相与に對論すと雖も人猶未だ其世に大益あるを知るに至らず。既にして仏蘭西大變革の後其國人等大に此学を講明し、其業を拡充せしより、ついに普く世に布及して人々皆其国を利し、民に裨^{ひえ}あるを知るに至り、方今に及ては欧州各国、此業を講習せざる鮮し。然るに我国未だ、此学科の書の世に翻譯を経し者あらざるが故に今者、初めて¹²此書を訳し、以て官梓に付すと雖も其科名に填する訳字の如きも從來、あるいは政表、国勢等の字を用いて亦未だ一定普通の称あるを見ず。因て此に改め訳して統計学とす。

⁸ 原文は 今

⁹ 原文は 初メテ

¹⁰ 【参考文献】: 高木秀玄「箕作麟祥と統計学」(関西大学経済論集)

¹¹ 学問をきわめた大学者のたとえ

¹² 高木の前出の文献では、「初メテ」を「初めて」としているが、筆者は、これを文脈から「初めて」と表記した。